

平成31年度（令和元年度）全国学力・学習状況調査三郷市の調査結果分析と今後の方策例

小学校算数 主な成果（○）と課題（▲） 全国差：全国平均正答率との差 三郷市教育委員会

算 数

【全体の結果（正答数分布グラフ等からの分析）】

- 平均正答率は、69.0％である。
- 全国と正答数を比較すると、その差は+0.3問であり、全国をやや上回る。
平均正答数：全国（9.3問／14問）三郷市（9.6問／14問）
- 全国と正答率を比較すると、その差は+2.4％であり、全国をやや上回る。
平均正答率：全国（66.6％）三郷市（69.0％）

【領域別、評価の観点別結果】

- 学習指導要領の領域「数と計算」は全国差+3.8％、「量と測定」は全国差+1.7％、「図形」は全国差+0.3％、「数量関係」は全国差+2.6％とすべての領域において、全国の平均正答率を上回る。
- 評価の観点「数学的な考え方」は全国差+2.0％、「数量や図形についての技能」は全国差+3.6％、「数量や図形についての知識・理解」は全国の平均正答率と同じである。

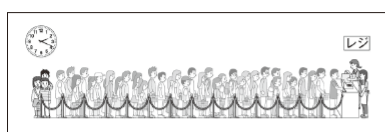
【設問別結果（平均正答率、無解答率からの分析）】

- すべての設問において、無解答率が全国平均を下回る。
- 2（4）「洗顔と歯みがきで使う水の量を求めるために、 $6 + 0.5 \times 2$ を計算する問題」（加法と乗法の混合した整数と少数の計算をすることができる）では、全国差+9.3％である。
- ▲1（1）「長方形を直線で切ってできた図形の中から、台形を選ぶ問題」（台形について理解している）では、全国差-1.8％である。
- ▲4（1）「だいたい何分後に乗り物券を買う順番がくるのかを知るために、調べる必要のある事柄を選ぶ問題」（目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことができる）では、全国差-0.8％である。

【今後の方策例】「目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだすことができる授業展開例」

H31（R1）年度授業アイディア例（国立教育政策研究所教育課程研究センター）より

① 目的に適した伴って変わる二つの数量を見いだす。



人がたくさん並んでいるね。

私も長い列に並んだことがあります。
レジに着くまでには、時間がかかりそうです。

並び始めた時刻は午後2時19分です。
次の予定があるので、午後3時までにレジに着きたいです。
レジに着くまでには、どのくらいの時間がかかるのかを考えてみましょう。

教師

このままでは分からないな。何を調べればよいのでしょうか。

列の長さ
です。

並んでいる
人数です。

一人当たりにかかる
会計の時間です。

列の長さや人数、会計の時間は調べるのが大変そうです。
かわりにボールの数を数えるのはどうでしょうか。その方が簡単に調べられそうです。

進んだボールの数と時間を調べれば、レジに着くまでの時間が分かりそうです。



ある一つの数量を調べようとするとき、その数量を直接調べにくい場合は、それと関係のある他の数量
を使って調べられないかと考えて事象を観察し、伴って変わる二つの数量を見いだすことができるように
することが大切です。

結果を分析すると、示された
場面の状況の変化に応じて、数
学的に表現・処理し、得られた
結果から条件に当てはまるか
どうかを判断することに課題
が見られました。

本授業アイディア例では、日
常生活の問題の解決のために、
伴って変わる二つの数量を見
いだし、場面の状況に応じて、
数学的に表現・処理したことや
自らが判断したことを振り返り、
評価・改善することができる
ようにすることをねらいとし
た授業を紹介します。

授業の際には、問題を自ら発
見し解決するために、事象を数
理的に捉え、数学的に表現・処
理し、解決過程や結果を振り返り、
意味づけたり、活用したり
することができるようにする
ことが大切です。

